

Title	版本比較から見る毛宗崗本『三国志演義』の特徴
Sub Title	Characteristics of Mao Zonggang's "Sanguozhi Yanyi" from a comparison of editions
Author	鵜浦, 恵(Unoura, Megumi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2024
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	『三国志演義』は明代に成立したのち、様々な版本が多く地域、版元から出版されており、その内容も多岐にわたっている。その中で、清代初期に刊行された『毛宗崗批評三国志』（以下、毛宗崗本）は李卓吾本を底本として、多くの改変を加え、自身の評を附したものであり、現代にいたるまで『三国志演義』の通行本となっている。本年度は、毛宗崗本の評に表れる「忠」の特徴について、李卓吾本との比較も踏まえつつ検討した。 『三国志演義』は蜀漢への忠を主題としている作品であるが、実際に作品の中に出てくる「忠」の語のうち君臣関係を指すものを抽出して分析してみたところ、評語では半分、本文では7割以上が蜀漢に対する「忠」を指していた。一方、蜀漢以外への「忠」も一定程度描かれていることがわかったため、それらがどういうものか、また毛宗崗はそれをどのように評価しているかについて、評語を対象を絞った上で主に孫権、曹操に対する「忠」に分けて調査をした。 まず、孫権に対する「忠」は、いずれも劉備とは敵対しない場面で使われており、また曹操、魏と敵対する場面も多くあった。また、于詮や桓彝などは李卓吾本に比べて評価されており、文章にもそれが表れていた。ここから、毛宗崗は孫権に対する「忠」を蜀と敵対しない限り認めている。次に、曹操に対する「忠」「忠臣」という評語には、その正しさを認めるようなニュアンスはなく、程度の差はあれむしろ皮肉的に使われている。ただし、曹操の死後は魏に対する「忠」を毛宗崗は李卓吾本よりも高く評価している例があり、その原因としてその場面の人物関係の構造が影響しているものと考えられる。 今回の調査では、毛宗崗は『三国志演義』における蜀漢への「忠」を最重要視した上で、それ以外に向けられている「忠」についても意識的に評価しているものがあることが確認できた。しかし、それぞれの人物評価の背景に関しては更なる考察が必要であり、今後の課題としたい。 In this study, it was confirmed that Mao Zonggang prioritizes "loyalty" towards Shu Han in the Romance of the Three Kingdoms, but also consciously evaluates "loyalty" directed towards other entities.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2023000010-20230248

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2023年度 学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	経済学部	職名	専任講師	補助額	200千円 (B)
	氏名	鵜浦 恵	氏名（英語）	Unoura, Megumi		
研究課題（日本語）						
版本比較から見る毛宗崗本『三国志演義』の特徴						
研究課題（英訳）						
Characteristics of Mao Zonggang's "Sanguozhi Yanyi" from a comparison of editions						
1. 研究成果実績の概要						
『三国志演義』は明代に成立したのち、様々な版本が多く地域、版元から出版されており、その内容も多岐にわたっている。その中で、清代初期に刊行された『毛宗崗批評三国志』（以下、毛宗崗本）は李卓吾本を底本として、多くの改変を加え、自身の評を附したものであり、現代にいたるまで『三国志演義』の通行本となっている。本年度は、毛宗崗本の評に表れる「忠」の特徴について、李卓吾本との比較も踏まえつつ検討した。 『三国志演義』は蜀漢への忠を主題としている作品であるが、実際に作品の中に出てくる「忠」の語のうち君臣関係を指すものを抽出して分析してみたところ、評語では半分、本文では7割以上が蜀漢に対する「忠」を指していた。一方、蜀漢以外への「忠」も一定程度描かれていることがわかったため、それらがどのようなものか、また毛宗崗はそれをどのように評価しているかについて、評語に対象を絞った上で主に孫権、曹操に対する「忠」に分けて調査をした。 まず、孫権に対する「忠」は、いずれも劉備とは敵対しない場面で使われており、また曹操、魏と敵対する場面も多くあった。また、于詮や桓彝などは李卓吾本に比べて評価されており、文章にもそれが表れていた。ここから、毛宗崗は孫権に対する「忠」を蜀と敵対しない限り認めている。次に、曹操に対する「忠」「忠臣」という評語には、その正しさを認めるようなニュアンスはなく、程度の差はあれむしろ皮肉的に使われている。ただし、曹操の死後は魏に対する「忠」を毛宗崗は李卓吾本よりも高く評価している例があり、その原因としてその場面の人物関係の構造が影響しているものと考えられる。 今回の調査では、毛宗崗は『三国志演義』における蜀漢への「忠」を最重要視した上で、それ以外に向けられている「忠」についても意識的に評価しているものがあることが確認できた。しかし、それぞれの人物評価の背景に関しては更なる考察が必要であり、今後の課題としたい。						
2. 研究成果実績の概要（英訳）						
In this study, it was confirmed that Mao Zonggang prioritizes "loyalty" towards Shu Han in the Romance of the Three Kingdoms, but also consciously evaluates "loyalty" directed towards other entities.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
鵜浦恵	毛宗崗本『三国志演義』における「忠」の方向性	三国志学会第18回大会	2023年9月3日			